

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	1-2-1		事業名	学校・地域連携事業
担当	教)生涯学習部生涯学習推進課 上野 Tel211-3872			
全体計画				
事業内容	学校・家庭・地域が一体となり、子どもを豊かに育てていくための地域教育力の向上を図ることを目的として、放課後や学校週5日制による休日、学校教育における総合的な学習の時間などにおいて、子ども向けプログラムの実施と地域人材の情報収集及び活用などを行う。 なお、地域活動及び地域ぐるみで学校教育を推進するとともに、地域の人々が共通の目的や関心のもとに、日常的に集い、学び、活動する場として「開かれた学校」づくりを進め、学校が地域の身近な生涯学習の拠点となることを目指している。		＜年度別の事業内容＞	
			○19年度 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降25校:計45校) ○20年度 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降30校:計50校) ○21年度 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降35校:計55校) ○22年度 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降40校:計60校) (運営委員会への委託は4年間、5年目以降は自主運営)	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	○各地域・学校の特色を生かして、自然体験や社会体験、世代間交流などの子ども向けプログラムのほか、地域人材の情報収集と活用等の事業を実施した。 ○土・日曜日、平日の放課後、総合的な学習の時間などに、主に学校を会場として実施している。 ○実施回数 303回(うち子ども向け216回) ○参加者数 48,188人 内訳 運営側 4,884人 子ども 30,555人 大人 12,749人 ○主な内容 花いっぱい運動、読み聞かせ会、交通安全教室、授業支援、学校環境整備(花壇整備)、地区スポーツ大会、河川敷ゴミひろいボランティア、ホテル放流会 等 【事業費(決算額) 2,175千円】		○自然体験や社会体験、世代間交流などの子ども向けプログラムを実施し、地域人材の情報収集と活用等を図ったが、昨年度に比べ実施回数及び参加者数が全体に増加した。 ○土・日曜日、平日の放課後、総合的な学習の時間などに、主に学校を会場として実施している。 ○実施回数 349回(うち子ども向け259回) ○参加者数 55,609人 内訳 運営側 5,682人 子ども 36,395人 大人 13,532人 ○主な内容 学校及び周辺歩道の環境整備(花壇整備)、読み聞かせ会、交通安全教室、地域安全マップ作製、こども見守り、高齢者との交流会、スポーツ大会、清掃活動、ホテル放流会 等 ○運営委員・ボランティア等研修会の実施 日時等 平成21年2月4日(水)10~12時、教育委員会会議室 参加者数 39名 内容 第1部『学習活動支援者への傷害保険』の加入内容 第2部グループ討議(各運営委員会の活動内容等) 【事業費(決算額) 2,175千円】	
事業内容	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(予算)	
	○各地域・学校の特色を生かし、自然体験や社会体験、世代間交流などの子ども向けプログラムを実施し、地域人材の情報収集と活用等の事業を実施した。 ○土・日曜日、平日の放課後、総合的な学習の時間などに、主に学校を会場として実施している。 ○実施回数 340回(うち子ども向け241回) ○参加者数 48,558人 内訳 運営側 4,931人 子ども 34,375人 大人 9,252人 ○主な内容 花壇整備、水田体験、玉ねぎ栽培、読み聞かせ会、昔遊び、交通安全教室、地域安全マップ作製、こども見守り、高齢者との交流会、スポーツ大会、清掃活動、ホテル放流会、もちつき大会等 ○運営委員・ボランティア等研修会の実施 日時等 平成22年2月8日(月)13:30~16:30、教育委員会会議室 参加者数 42名 内容 第1部報告「子どもの参加と地域活動～『子どもの権利条例』を踏まえて」 第2部講演「地域の教育力を活かす～子どもを育む学校・地域の連携」 第3部グループ討議(各運営委員会の活動内容等) 【事業費(決算額) 2,197千円】		○子ども向けのプログラムの実施 地域住民やボランティアが放課後や学校週5日制による休日、学校教育における総合的な学習の時間などにおいて、自然体験学習や社会体験活動、世代間交流などの子ども向けのプログラムを企画、実施。 ○地域人材の情報収集と活用 学習活動や地域活動において指導者や講師となりうる特色ある地域の人材の情報収集を行い、人材・ボランティアバンクの作成などによって、団体の個々の活動や子ども向けプログラムの実施に生かすとともに、学校教育における行事やクラブ活動、総合的な学習の時間などへの活用を図る。 ○学校施設の活用と整備 運営委員会の活動拠点や子ども向け事業の実施場所、地域団体などの学習場所の会場として、余裕教室の活用と整備について調整を図る。 ○実施校 新規5校 (2年目5校、3年目5校、4年目5校、5年目以降40校:計60校) ○研修会の実施 【事業費(予算額) 2,475千円】	
事業内容	【事業費(決算額) 2,197千円】			

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	1-2-1			事業名	学校・地域連携事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
事業実施校数	40校	45校	50校	55校	60校	60校	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 PTAや地域住民を運営委員として参画させ、行事等の企画・運営に積極的に携わっている。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり 研修等において、地域人材の情報収集や活用に対する適切な支援を行うことにより、さらに多くの市民参加を促している。</p>							
評価(成果)			課題				
<p>学習活動や地域活動において指導者や講師となりうる特色のある地域の人材の情報収集を行い、団体の個々の活動や子ども向けのプログラムに生かすほか、学校教育における行事や総合的学習などへの活用を図り、日常的に集い、学び、活動する場としての「開かれた学校」づくりや、学校が地域の身近な生涯学習の拠点となるための基礎づくりができてきた。また、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしながら連携することで、札幌の明日を担う子ども達へのびのびと成長することが期待できる。</p>			<p>当事業によるさまざまな活動を通じて、学校と家庭・地域の連携が深まることにより、地域住民にとっても学校が身近なものとなり、地域教育力の向上が見られつつあるが、運営が学校中心になりがちであることから、学校側の負担が過重とならないよう配慮する必要がある。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>研修会や活動内容の視察を通じて、運営委員会に対する指導・助言を行うとともに、地域に根ざした特色のある事業内容の充実を図りながら、学校・家庭・地域が一体となった地域教育力の向上を目指していく。</p> <p>また、関連する文部科学省委託の学校支援地域本部事業の成果を検証した上で、本事業のスキームの見直しを行っていく。</p>							

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		1-2-1			事業名	学校・地域連携事業				
事業費の推移										
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計				
計画	事業費	—	—	—	—	—				
	財源内訳									
	国・道支出金									
	市の債									
	その他									
	一般財源									
予算	事業費	2,526	2,508	2,491	2,475	10,000				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0	0	0				
	市の債	0	0	0	0	0				
	その他	0	0	0	0	0				
	一般財源	2,526	2,508	2,491	2,475	10,000				
実績	事業費	2,175	2,175	2,198	—	6,548				
	財源内訳									
	国・道支出金	0	0	0		0				
	市の債	0	0	0		0				
	その他	0	0	0		0				
	一般財源	2,175	2,175	2,198		6,548				
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)					—			
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)										
《全体》										
[19年度]										
[20年度]										
[21年度]										
[22年度]										